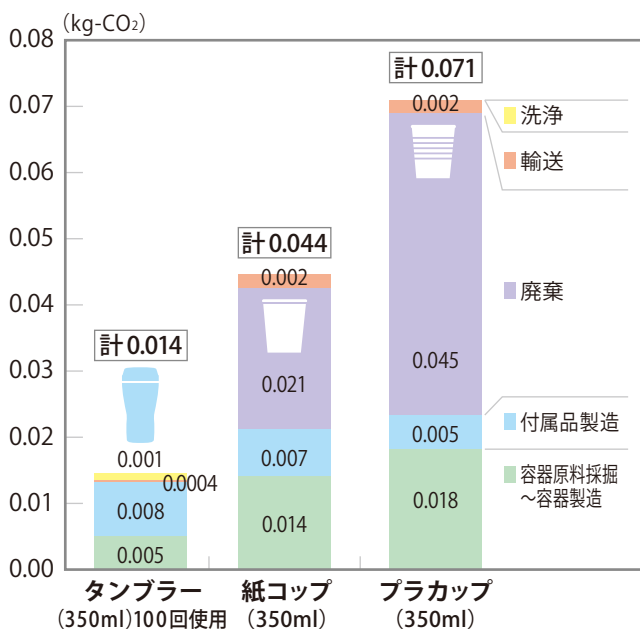


職場にはマイカップを

職場でも、使い捨ての紙コップをやめて、給茶機の横にマイカップ置き場を設置したり、マイカップのない方には貸出用のマグカップを設置したりといった会社が増えています。

環境配慮の取り組みが広がって欲しいですね。



タンブラーを100回使った場合、1回あたりのCO₂比較。

商店街での取り組み

東京にある立川羽衣商店街では、70店舗ほどある商店が「エコー店一品」というユニークな活動で、ごみの発生抑制を推進しています。

どこのお店も、何か一つ環境に良い取り組みをしようという活動です。お茶屋さんでは、お客さんに茶殻を持参してもらい、お客様には商店街発行のポイントシール「ハローチップ」を渡します。お茶屋さんは回収した茶殻を店頭の生ゴミ乾燥機で干して、手縫いの人形の中に入れた「エコドール」を作って販売。このエコドールは、お部屋に飾っておくと消臭効果があります。

お米屋さんでは、マイ米袋を使ってもらい、コメ袋を持参していただくとハローチップを提供します。お惣菜屋さんでは、タッパーを持参いただいて、プラスチック容器の発生抑制に努めています。

全国各地でもこのようにエコに配慮した取り組みが広がっています。



▲ 茶殻を干す生ゴミ乾燥機

▲ 茶殻を入れたエコドール

給茶、給水スポットを活用しよう

マイボトルを持ち歩いていて、残念なのが、詰めたお茶や飲料を飲み終えてしまったとき。そこで、マイボトルにお茶や冷水を補給できるところが、給茶スポット、給水スポットです。

お茶屋さんで、プロの方がお茶を入れてくれる給茶スポットや、自分で1回分の煎茶を購入して自分で給茶するお茶Barを実施しているお店が増えています(全国の実施店は「給茶スポット」で検索してください)。

また、いくつかの自治体では、企業や大学に給水スポットの設置を呼びかけたり、公共施設に設置するところもあります。

また、多くのコーヒー店では、マイボトルに詰めてくれますので、遠慮しないで「マイボトルに入れてください」と言ってみましょう。